

「学びあい」・「育ちあい」・「響きあう」 夢を育む街かしば

地域の
特色ある
活動

奈良県香芝市教育委員会

1 はじめに

香芝市は、奈良県の北西部に位置する人口約7万9千人（平成31年3月現在）の都市です。万葉集にも度々登場する二上山の東麓に広がる市域は、緑鮮やかな丘陵や田園など豊かな自然に恵まれた街である一方、大阪府に接し、大阪近郊の住宅都市として発展してきました。

全国的に少子高齢化が進んでいる中で、香芝市は14歳以下の年少人口の割合が高く、地域のコミュニティなどで子供と大人とのつながりが強い、活気ある若々しい街です。

香芝市教育委員会は、「『学びあい』・『育ちあい』・『響きあう』夢を育む街かしば」をスローガンとして、「いつでも」・「どこでも」・「だれでも」楽しく安心して学べる教育環境の充実を目指して各種取組を展開しています。



2 多様な教育的ニーズに対応した支援

本教育委員会では、合理的配慮が必要な多様な教育的ニーズに対応するため、多角的な視点から個に応じたきめ細やかな支援を以下のように行っています。

(1) スクールソーシャルワーカー常勤配置
本市では平成24年度より、教育委員会に

SSWを専門職として常勤配置しています。これにより、近年需要が増してきている、貧困や不登校、虐待、保護者の精神疾患など、教員だけでは対応が難しい諸問題の解決に向けて、各校園や家庭との連携、児童福祉や生活支援等に係る香芝市部局や関係諸機関とのインターフェイスとしての役割を担いつつ、福祉の専門家として各ケースに寄り添った支援を行うことができています。

(2) 中学校巡回型通級指導教室の実施

一昨年度に4校ある中学校のうち1校に通級指導教室を設置、1名の担当教員を配置しました。今年度よりさらに1名、常勤の担当教員を配置し、その他の3校へ訪問して通級による指導の充実を図っています。これにより、生徒の授業時数、クラブ等の課外の活動時間等を保障したまま、本人に最も適した学びの場を選択して受けることができています。

(3) 特別支援教育担当指導主事、特別支援教育支援員配置

教育委員会に特別支援教育に関する専門職として、教育指導主事を常勤配置し、市立小学校10校、中学校4校に、それぞれのニーズに合わせて特別支援教育支援員17名を非常勤配置しています。各校の教員等と連携を図り、特別支援学級に在籍する子供だけでなく、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子供に対しても、適切な指導や丁寧な支援を行っています。

(4) 適応指導教室（すみれ教室）を核とした幅広い支援

個に応じた学校生活への復帰を援助するすみれ教室に2名の常勤指導員を配置し、2名の非常勤指導員を各校や家庭に派遣しています。また、心理学や教育学、福祉を専門に学ぶ大学生、大学院生が、ボランティアスタッフとして、すみれ教室での活動や各家庭への訪問指導にて、自立の援助を進めています。他にも、不登校児童生徒をもつ保護者の集まりに指導主事が参加し、相談、助言等を行っています。

(5) 香芝市心のケア支援事業の実施

心に問題を抱えたサポートが必要な子供に対して、心配事や弱音を打ち明けやすいと思われる子供と近い世代の臨床心理学専攻の大学院生が心理的に関わり、子供たちの心のケアを行う「香芝市心のケア支援事業」を実施しています。支援とともに、定期的に学校関係者、大学院生、大学担当教員及び教育委員会が対象の子供に対する支援について協議を行うことでサポートの充実を図っています。

3 ニコニコあいさつ運動

毎月25日を「ニコニコあいさつの日」とし、明るく、元気な挨拶があふれる園・学校にと、教育委員会と各園校が一丸となって「あいさつ運動」を推進しています。

爽やかな挨拶が市内各地で交わされる、そんな素敵な街にしていくために、「あいさつの輪」を広げています。



4 共同中学校給食センター協議会の設立

平成27年に、隣町である広陵町と「広陵町・香芝市共同中学校給食センター協議会」



を設立しました。協議会は、一部事務組合よりも経費の節約及び事務の能率的処理が図れること、広陵町とはアクセスが良いため配送時間に問題がないこと、食物アレルギーなどの課題も共有できること等から、共同で給食センター「スマイル」を建設・運営していくこととなりました。「スマイル」という愛称は、生徒からの募集で決定し、市内4中学校と広陵町2中学校の合計6校で一斉に給食をスタートしました。

今年度2学期をもち、開始して3年になりますが、講演会及び教職員研修会など食育の推進に力を入れ、日々試行錯誤を繰り返しながら事業に取り組んでいます。

5 おわりに

平成28年4月に向こう5年間の教育大綱を策定しました。この大綱では、(1)思いやりの心を育み、社会を生き抜く力を育てる「学校教育」(2)子育ての喜びを実感し、親も子も育ちあう「家庭教育」(3)子どもから大人まで、共に地域で活かす「社会教育」という3つの教育目標を立て、具体的な教育施策を推進していくこととしており、今後もこれらの取組を着実に推進していくとともに、時代の変化に的確に対応した教育行政を展開していきたいと考えています。

教育長
村中義男

